



奈良県立医科大学

平成27年 2月25日

## 第100回北米放射線学会（RSNA）Cum Laude 受賞について

本学放射線医学・IVRセンターの西尾福英之 助教が平成26年11月30日～12月5日に米国イリノイ州シカゴで開催された「第100回RSNA（北米放射線学会）」でCum Laude 賞を受賞致しました。

RSNAは今年で100年にわたる歴史があり、毎年感謝祭直後にシカゴで開催される5万人を超える出席者がある世界最大規模の学会です。世界各国から放射線医学の研究者、臨床家、技術者が一堂に会し、放射線医学の最新の知見を共有します。記念となる第100回のテーマは、“A Century of Transforming Medicine”と題し放射線医学の最先端の知識と技術が発表されました。

Cum Laude 賞は、1824題の教育展示の中のその上位4.5%の高評価を得たことが評価されたものです。

西尾福助教の受賞した対象研究題目は下記のとおりです。

### 【受賞対象研究題目】

「Technical Recommendation for Intra-arterial Therapy in Rat Liver Tumor Model」  
（ラット肝腫瘍モデルを用いた動注療法の技術開発）

### 【内容】

【目的・方法】1. ラットの肝腫瘍モデルの作成方法、2. 肝動注療法の方法、3. ラットの肝動脈の解剖学的変異について検討した。【結果】1. 肝細胞癌：AH109A, Donryu rats あるいは McA-RH7777, Sprague Dawley rats、大腸癌：RCN-9, F344 rats あるいは CC531, WAG/Rij rats などを用いて細胞培養から移植までの手順をまとめた。2. ①開腹下に胃十二指腸動脈からの直接穿刺、②大腿動脈アプローチ、③頸動脈アプローチの3つの方法についてその利点、欠点についてまとめた。3. 肝動脈の解剖学的変異は4つのパターンに分類された。変異は約10%にみられた。【結語】画像下の肝動注療法は悪性腫瘍に対する基礎研究に用いる手技として有用であった。



### 【受賞者のコメント】

この研究は、IVR 医が今後取り組む可能性が高い基礎実験の手技についてまとめております。対象は小動物であり、我々放射線科医にとっては、日常接することがほとんどないように思います。私自身、この研究を開始した当初は、暗中模索の状況でのスタートでした。これまでの論文を読み返し、それを想像して試行するということを繰り返すような日々でした。結果として手技の確立が可能となりました。今後、同様の研究をされる先生方に少しでも手助けになればという思いで発表致しました。

この研究は、多くの方に支えていただきました。放射線医学教室入局からご指導いただいております吉川公彦教授、田中利洋講師、実験を日々サポートしていただいた福岡靖史様、消化器外科の先生方に心から感謝したいです。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどを、どうぞ宜しくお願い申し上げます。この受賞を契機とし、今後も臨床・研究に励んでいく所存です。

放射線医学・IVRセンター 助教 西尾福英之

### 【所属長のコメント】

国際的にも歴史のある北米放射線学会に多くの研究成果の中から高く評価されたことを大変栄誉なことでもうれしく思います。これからもなお一層社会に貢献する研究に邁進してくれることを願います。

放射線医学・IVRセンター センター長兼教授 吉川公彦

#### 受賞者の略歴

##### 経歴

- 2003年3月 奈良県立医科大学卒業
- 2003年4月 奈良県立医科大学附属病院 放射線科 入局
- 2005年4月 愛知県がんセンター 放射線診断部 レジデント
- 2007年4月 奈良県立医科大学 放射線科 (医員)
- 2009年4月 奈良県立医科大学 放射線科 (助教)

##### 受賞歴

- 2006年 The Japanese society of Interventional radiology より最優秀論文賞
- 2010年 第32回癌局所療法研究会 奨励賞
- 2009年 第34回リザーバー研究会推薦研究
- 2012年 第50回癌治療学会最優秀演題賞
- 2013年 第38回リザーバー研究会推薦研究
- 2014年 JVIR Editor's Award for Outstanding Clinical Research Paper